

依頼に対する断り表現についての中日対照研究

肖 志*・陳 月 吾**

Research regarding expressions for refusing requests

Xiao zhi, Chen yue wu

Abstract: Apart from differences in social status and degree of familiarity, expressions for refusing requests are also influenced by age difference. Especially in Chinese, depending on age group, use of different strategies were clearly seen. Of particular note are the opposite strategies, seen in young age groups, of "only giving an explanation" and "only giving a negative response."

1. 研究の背景と目的

人間は何かの目的をもってコミュニケーションし、その目的を達成するために様々な手段、またはストラテジーを使っている。社会文化規範や価値観の相違により、外国語で異文化コミュニケーションを行う時、そのストラテジーも異なってくる。それにより、摩擦や偏見が生ずるのは避けられないものである。文法的に正しい文を作る言語知識だけでは不十分であり、円滑なコミュニケーションを成立するために、相手文化のストラテジーの知識は欠かせないものである。したがって、近年、日本語教育の研究領域は、音声、形態、統語論のレベルから、語用論のレベルまで広がってきた。特に、依頼、謝罪、感謝、断り、ほめ言葉などの発話行為について、学習者と母語話者の表現との対照研究は注目されてきた。

その中で、断りという言語行動は、相手の好意や依頼に対して「その意に添えない」という気持ちを相手に理解してもらう行動であり、その行動自体が相手の面子をつぶし、人間関係を損なう危険性を伴うものである。日本語教育において専門的な指導がなければ、学習者は日本語での断り方略を身に着けるのは難しい。特に、中国国内で日本語を勉強する学習者は、ほんの日本語の断り場面に触れるチャンスが少なく、誤用が多く見られ、勉強中の指導の重要さが一層目立ってくる。しかし、今中国でよく使われている日本語教科書では、断り表現に関する内容は散見しているが、系統的にまとめた内容はまだ見かけていない。長い間日本語の教育は人間関係に積極的な作用を持つ表現形式に重点をおいている。例えば、「感謝」「誘い」「挨拶」などの面。一方、人間関係を壊す恐れのある表現形式（例えば：断り）は言及することがわりと少ない。本稿は、依頼に対する断り表現に焦点を当て、両国語の表現の特徴を対照し、中国人の日本語学習者の勉強に些か役立てることが望ましい。

2. 先行研究

* 教養部 ** 中国湖南中南大学

2.1 意味公式について

本稿では、発話行為を分析する際の単位として、意味公式 (semantic formula) を用いる。日本語教育の研究では、日本語学習者の発話行為「断り」の特徴を知るために、主な発話をその機能に基づいて分類し、その一つ一つを「意味公式」と称している。藤森 (1995) によると、「意味公式 (semantic formula)」とは発話を社会の相互作用の中で見た場合の発話行為具現化のための最小機能単位であるとのことである。さらに、学習者の発話行為に現れる「意味公式」の順序、頻度、内容などを日本語母語話者のそれと対照することによって、学習者の発話の特徴を明らかにすることができる。「意味公式」は、このような分析の基盤になっているため、その分類の方法が極めて重要である。

「意味公式」に関する分類はいろいろあるが、代表的なのは Takahashi & Beebe (1987) 及び Beebe ら (1990) による「直接的な意味公式」「間接的な意味公式」という分類法である。それについて、生駒・志村 (1993) が日本語に翻訳した。それに基づいて、藤森 (1995)、文 (2004) は修正を加えた。本稿は文 (2004) の提出した意味公式を用いて検討する。

2.2 中国語と日本語における依頼に対する断り表現の特徴

2.2.1 文鐘蓮^{註1}の研究

文 (2004) は、中国語と日本語において、依頼に対する断りの意味公式の発現頻度は次のような傾向があると指摘した。

(1) 目上の人の依頼に対する断り表現に、両言語ともに弁明と詫びの発現頻度が高くなるのである。両言語の発現頻度に際立っている差が見られるのは呼称と不可の意味公式である。中国語は弁明、詫び、呼称の三つの意味公式に発現頻度が現れるとともに、代案、不可、共感といったさまざまな意味公式の内容が併用されているに対し、日本語は主に弁明、詫び、不可といった三つの意味公式に最も高い発現頻度が集中しており、ほかの意味公式はほとんど使用されていない。

(2) 両言語ともに、親友の依頼に対する断り表現の高い発現頻度として、弁明、不可、詫びといった三つの意味公式が表れている。断り行為によってもたらす人間関係の障害を避けようとしている場合、中国語は代案や遺憾、言い淀みなどの意味公式が多用されており、日本語は代案の意味公式しか使用されていない。

(3) 一般の友人の依頼に対する断りにおいて、両言語ともに弁明、詫び、不可といった三つの意味公式が高い発現頻度で使われている。目上の人や親友に比べ、代案、次の約束、遺憾などといった意味公式があまり使用されていない。

2.2.2 加納^{註2}・梅の研究

加納・梅 (2002) は談話完成テスト D.C.T (Discourse Completion Test) を用いて、中国人非日本語学習者、中国人日本語学習者、日本語母語話者を対象とし、依頼に対する断り表現を対照して考察した。中国人非日本語学習者と日本語母語話者の特徴について次のように指摘した。

(1) 中国人非日本語学習者は「詫び先行型」より、「理由先行型」のほうが用いられやすい傾向がある。疎に対し、目上か同輩かに関係なく、「詫び先行型」が多い。親しい目上には「結論先行型」と「直接的な断り」は見られない。同輩に対して、疎の場合、「結論先行型」と「直接的な断り」を用いやすい傾向がある。

(2) 日本人は目上、同輩、親疎に関係なく、「詫び先行型」が現れやすい。疎の場合、目上より同輩のほうに「詫び先行型」がやや多く見られ、目上より同輩のほうに

気を配る傾向がある。「直接的な断り」を用いたのが半数ぐらいいることから、日本人は断るとき、はっきり相手に自分の意向を伝える傾向があることを示している。親しい同輩にも気軽に断る傾向も見られる。

3. 本研究における考察結果

馬場 蘆 (1992) は言語行動は強く人間関係から影響を受け、主に社会的要因と心理的要因によって選択され、社会的地位の差、性別の違い、年齢の差、親疎の度合いなどが考えられると指摘している。文、加納・梅の先行研究では、社会的地位と親疎関係をともに考えた。その研究結果もほとんど社会的地位と親疎関係の視点からまとめているが、筆者の調査では、中国語の依頼に対する断り表現において、年齢の差が見られる。

3.1 調査方法

場面の真実感に欠けている問題点があるが、必要とする資料を多数の被験者から効率的に収集することができる (熊谷 1993) ため、談話完成テスト D.C.T(Discourse Completion Test) を用いて質問紙によるアンケートと調査を行った。具体的な場面と相手人物を設定、文字化し、それぞれ被験者に中国語と日本語で書いてもらった。断り表現の発話が開始されてから終了するまで使用された意味公式の数を集計し、それを被験者の人数で割ることによって意味公式の発現頻度を計算した。ひとつの発話に同じ意味公式を持つ表現が一回以上使用された場合、一回と数えることにし、{ } で表すことにする。

3.2 調査対象

なるべく客観的なデータを得るために、本研究は同じ社会背景を持つ人を考察対象とし、日本人と中国人の大学生や大学の教職員から 18 歳～60 歳の被験者をそれぞれ 90 名選んだ。

10 代～20 代：男性 15 名、女性 15 名

30 代～40 代：男性 15 名、女性 15 名

50 代～60 代：男性 15 名、女性 15 名

日本語からの転移の可能性を考えて、日本語を専攻する人を対象外にした。

3.3 調査票の設定

被験者たちはもともとな繋がりもないので、心理的距離感があることは避けられない。より客観的に結果が出るように、相手人物は被験者の人間関係と距離感のある普通の友人に設定した。

表 3-1：調査票設定一覧表

場面	相手人物との関係	
翻訳の依頼	普通の友人	年上
		年下
		同じ年齢
デジカメの貸し出しの依頼	普通の友人	年上
		年下
		同じ年齢

3.4 分析に用いる本研究の意味公式の分類

本稿は文(2004)の提出した意味公式を参考にし、分析してみる。以下は今回の調査に現れた意味公式の機能および例を紹介していきたい。例文はすべて今回の調査票から拾い上げたものである。

表 3-2 意味公式の内容

意味公式	意味役割	例 (日本語)	例 (中国語)
不可	相手の意向に添えない意思表示	お断りさせていただきます。お貸しできません。だめだと思います。無理だわ。	恐怕帮不上忙了。不能借给你。
弁明	相手の意向に添えない理由の説明	都合が悪いので。今修理中なので。	最近要准备考试。我最近很忙。
詫び	相手の意向に沿えないことについて謝る	すみません。悪い。申し訳ございません。ごめんなさい。	对不起。不好意思。非常抱歉。
代案	問題解決の方法として他の方法を提示	ほかの人に貸してもらってください。	你看能不能找其他人。
共感	相手の意向に沿いたい積極的な気持ちを表す	お貸ししたいのですが。	我也很想帮忙。
感謝	相手の好意に謝意を表す	お声をかけていただいて嬉しいですけど。	谢谢你想到我。
遺憾	相手の意向に添えないことに残念な気持ちを表す	残念ですが。	真是不巧。真不凑巧。真遗憾。
次回の約束	次回を希望する積極的な気持ちを表す	別の日でよければお貸しできるのですが。別の日ならいいんだけど。	下次行吗。下次好吗。
情報要求	相手の用件をもう一度確認すること	翻訳なんですか。	翻译啊。
言い淀み	断り表現を和らげる働きをする	あ～。え～。	哎呀。啊。
保留	間接な言い方	ちょっと考えてさせてもらえますか。	让我考虑一下。
理解の要求	やむをえない自分の立場への理解を求める		希望你能理解。

3.5 依頼に対する断り表現における年齢の差

表 3-3 日本語母語話者の年齢層による意味公式の発現頻度^{注3}

意味公式	10代～20代		30代～40代		50代～60代	
	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
不可	23	76	19	65	24	80
弁明	27	90	28	93	28	93
詫び	25	83	27	90	23	76
代案	6	20	9	26	7	23
次回の約束	7	23	6	20	8	17

表 3-4 中国語母語話者の年齢層による意味公式の発現頻度^{注4}

意味公式	10代～20代		30代～40代		50代～60代	
	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
不可	24	80	24	80	27	90
弁明	21	70	28	93	27	90
詫び	12	40	25	83	24	80
代案	20	67	18	60	9	30
遺憾			10	33	9	30
次回の約束	6	20				

今回の調査により、全体的に先行研究の結論を検証できたほか、日本語の依頼に対する断り表現には意味公式の発現頻度および意味公式のパターンにおいて、年齢の差があまり著しくないことが分かった。一方、中国語の依頼に対する断り表現には年齢の差がはっきり見出された。それぞれの年齢層の断り表現の特徴を日本語と対照しながら述べてみよう。

3.5.1 10代、20代の断り表現

中国語母語話者の意味公式の発現頻度から見れば、若い年齢層、すなわち18歳～26歳の被験者の、依頼に対する断り表現は、{不可}の発現頻度が最も高く、それに次いで、{弁明}と{代案}も多く現れる。例：

- ①我帮不上忙。({不可})
- ②我最近要准备考试。({弁明})
- ③我最近要准备考试, 没时间帮你翻译。你找别人好吗? ({弁明} {不可} {代案})
- ④那天我也要用相机, 不能借给你。({弁明} {不可})

表3-4の断り表現のパターンの発現頻度から見れば、同じ年齢や年下の普通の友人に対して、普通{不可}を含んでいる意味公式は80%あるが、例①のように{不可}の意味公式のみで依頼を断るのが30%ぐらい占めていることも無視できない。この点について、藤森(1994)も親友を断る時、中国人は{結論}の意味公式を使う頻度が一番高いと述べた。また、例②のように{弁明}の意味公式のみで依頼を断るのも少なくなく、70%の内の20%ぐらい占めている。このような普通の友人に対してははっきりと断らず、婉曲な言い方を使う心構えは、例①の自己主張の強さと鮮明な対照となっていることが印象深い。つまり、若い年齢層では、自己主張が強くて相手のフェイスを保たない傾向と、相手のフェイスを保つために婉曲表現を使う傾向という、正反対の傾向が並存している。しかし、年上の普通の友人に対し、このような傾向が

見られなかった。これは、中国語では年上に対してより丁寧な言葉遣いを選ぶ傾向があることと関係があるのであろう。

3.5.2 30代、40代の断り表現

表3-4の意味公式の発現頻度から見れば、30代、40代の被験者の依頼に対する断り表現は、若い年齢層と同じ傾向が見られ、{弁明}{不可}も多く使われている。しかし、断り表現のパターンの発現頻度から見れば、若い年齢層の明快さと違って、この年齢層の被験者には{詫び}{遺憾}{代案}などの意味公式を併用する傾向が見られる。つまり、短い発話を避けて、発話連続の長さが長い表現をより多く使う。藤森(1994)は日本語母語話者にも、目上の人に対し、発話連続を長くする方略を使用することが多いと指摘した。中国語話者のこの年齢層でも、断る相手の年齢問わずこういう傾向が見られる。これはこの年齢層の人々は、社会的地位が安定し始めているが、まだ完全に安定していない状態にあって、人間関係を一層慎重にしているからであろう。例：

⑤真是 不巧，我最近很忙，恐怕帮不上忙了，下次好吗？

（{遺憾}{弁明}{不可}{次回の約束}）

⑥真是 不好意思，那天刚好我家里也要用相机，不能借给你了，你看能不能找其他人？

（{詫び}{弁明}{不可}{代案}）

3.5.3 50代、60代の断り表現

同じように表3-4の意味公式の発現頻度から見れば、50代、60代の被験者の依頼に対する断り表現は、断る相手の年齢問わず、{不可}の意味公式が多く使われているが、断り表現のパターンの発現頻度から見れば、{詫び}{遺憾}などと併用することが多い。30代、40代の年齢層と比べれば、この年齢層では発話連続を長くする方略が特に特徴になっていない。逆に、より短い断り方略を選んでいる。これはこの年齢層の人は、社会的地位が完全に安定し、尊重される年齢層になっているため、行動様式も決まったパターンになるところにあるからであろう。

⑦真是 不好意思，我帮不上忙。

（{詫び}{不可}）

⑧真是 不巧，我家的相机送去修了，不能借给你了。

（{遺憾}{弁明}{不可}）

4、まとめ

今回の調査結果により、両言語の依頼に対する断り表現の特徴をまとめてみよう。

意味公式の発現頻度から見れば、両言語ともに「弁明」「詫び」「不可」は最も多く使用されており、断り表現の「三つの基礎的な意味公式」であることが明らかになった。その中に、中国語母語話者の10代～20代以外に、「弁明」は90%以上に占め、発現頻度が最も高い。これは「断る」という言葉の語源から理解できる。『日本国語大辞典』によって、「断る」という動詞はもともと、「こと（言、事）割る」の意で、「ことのは是非、優劣などを言い分ける。判断する。」という意味であった。判断するということは、理由を説明するということに連続するわけだが、これは言い訳などを言うという意味合いにも連続する。（森山）このように、「断り」の語源は、「理（ことわり）」ということと深いつながりがあり、「弁明」は断り表現に欠かせない意味公式になることが認められるであろう。そして、対人関係において誠実であるべきであるという誠実原則（森山）に基づいて、「不可」（率直に相手に断る旨を表すこと）は断りの意味公式にその重要さ

を示しておく。一方、断り行為の本質は相手のフェイスを脅かす行為なので、積極的な関係保全のために、「詫び」も断り表現の意味公式において重要な一環になるであろう。

「代案」「遺憾」「次回の約束」「共感」などの「三つの基礎的な意味公式」以外の意味公式の発現頻度から見れば、日本語より中国語のほうがはるかに上回った。つまり、日本語の断り表現はわりと「弁明」「詫び」「不可」の「三つの基礎的な意味公式」に集中しておくに対し、中国語の断り表現はわりと多様性が感じられるであろう。

断り表現のパターンから見れば、日本語には、「弁明」「不可」のほかに、「詫び」「代案」などの意味公式と併用する傾向、すなわち、発話連続を長くする方略が見られた。このような特徴は中国語母語話者の30、40代の年齢層で割りと高い頻度で見られた。中国語には、年齢層によって、違う断り表現の方略を使用する特徴が見られた。その中に、同じ若い年齢層に見られた「弁明のみ」と「不可のみ」との正反対の方略が目立つ。一方、日本語には年齢の差が見られたが、そんなに著しくないであろう。

5、今後の課題

今回の調査では、いくつかの不足点がある。研究方法としての談話完成テストD.C.T (Discourse Completion Test) は場面の真実感に欠けている問題点があるので、今度電話録音、ロールプレーなどの調査方法でデータを収集し、今回の結論を検証しようと思う。限られた地方で調査を行ったが、今度調査範囲を広げて調査したい。今回の調査は年齢の差に焦点を当て、相手の設定は普通の友人であり、親疎の度合い、性別の違いなどのより幅広い角度から研究することは今後の課題になる。

^{注1} 文鐘蓮：1989年大連外国語大学卒業後、中国医科大学外国語教研室に専任講師として就職し、2004年に来日し、筑波大学地域研究研究科の修士課程を終え、現在、お茶の水女子大学人間文化研究科博士後期課程に在籍しており、主な専攻は比較社会文化学、つまり異なる社会文化規範や価値観によって、日本語と中国語の言語使用が如何に異なるかを研究している。

^{注2} 加納陸人：現在日本文教大学文学部日本語教育研究室に所属し、専門分野は日本語教育、対照言語学である。主な研究テーマは「外から見た日本・日本人論」（中国や周辺諸国から見た日本・日本人・日本文化などについて研究）、「中等教育日本語教材と教授法」、「日本語教師研修会のカリキュラムと若手教師の成長」、「中国戦後日本語教育史」などある。

^{注3} 発現頻度の五人以下のものを除き、各年齢層の意味公式の発現頻度の前の五位を百分率で挙げた。

^{注4} 発現頻度の五人以下のものを除き、各年齢層の意味公式の発現頻度の前の五位を百分率で挙げた。

参考文献

- ① 藤森弘子(1994)「日本語学習者にみられるプラグマティック・トランスファー—「断り」行為の場合—」『名古屋学院大学日本語学・日本語教育論集』, 1994, 1:1-19
 1995「日本語学習者にみられる『弁明』意味公式の形式と使用—中国人・韓国人学習者の場合—」『日本語教育』第87号:79-90
 1996「関係修復の観点からみた『断り』の意味内容—日本語母語話者と中国人日本語学

習者の比較-」『大阪言語文化学』Vol. 5. : 4-17

- ② 李威(1999)「日・中・韓母語話者の『断り』行為の対象研究」日本語教育学会秋季大会
口頭発表
- ③ 文鐘蓮(2004)「断り表現における中日両言語の対照研究」『人間文化論叢』第7巻：
123-132
- ④ 馬場俊臣・盧春蓮(1992)「日中依頼表現の比較対照」『北海道教育大学紀要(第1部
A)』第43巻
- ⑤ 加納陸人・梅曉蓮「日中両国語におけるコミュニケーション・ギャップについての考
察」『文教大学 言語と文化 第15号』

(平成20年3月31日受理)